
小説株式会社(6)最後の一本が抜けたのでついにはげになっちゃったよバージョン

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小説株式会社（6）最後の一本が抜けたのでついにはげになっちゃったよバージョン

【Nコード】

N1725J

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

なろうに実際に書いてる人を題材に書いています。今回は、うさぎやが河野夜兔に改名したので、それを題材に書きました。知らぬ人はすまぬ。またネタができれば書きます。ともかく、ひつぶ武将を先に書かないといかん。とはいえ、これも90くらいアクセスがあるので何とか完結させたい。

うーむ。うさぎを活躍さすか。クレ夫を活躍さすか。

うさぎは眠っていた。正確には、眠ったフリをしていた。

なぜかというと、本当は、飲んだせいか体が火照っており、男子に襲われたい気分になっていたのだ。ウズウズしていたのだ。

しかし、全然襲われない。ボビー、たけし、やまもっさん。キヤラは増えるのに話が全然先に進まない。クレ夫はおよび腰だし、おこめにいたってはへりでどこかに飛んで行ってしまった。

うさぎは悲しい。心の準備はできてるのに誰も襲ってくれない。たけしとボビーが少しやる気になったが、いつの間にか、また素振りの練習をしてる。クレ夫などやまもっさんといっしょに八十路妻のDVDを興奮して観てる。

うさぎはベッドの上に横になりながら、やるせなくてやるせなくてたまらない。

しかし、起きたところで、別に何もアクションが起こるとは思えない。

とはいえ、寝ていてもそれこそアクションが起こらない。

うさぎは悶々としていた。どうしたものか。

その時、うさぎは股間に違和感を感じた。

「?????!?!」

なんと、たけし君の弟よしや君（幼稚園児）が、うさぎの股を触ってるのだ。

まーた窓から勝手に入ったね！

「おかしい。おかしい」

よしや君は目を白黒してる。

「ちんこついてない」

当たり前でしょーーーーっ!?!?!

うさぎは叫びたかった。しかし、子どもに怒鳴るのもちよつとねえ。

さらに、よしや君の行動はエスカレートした。

何を思ったのか、うさぎの股間にライターで火をつけたのだ。

「あじいいいいいいいいいい」

うさぎは飛び上がった。もう寝てられねえ!!!

「げらげらげら」

大声で笑うよしや君。

うさぎはそのはじけんばかりの笑顔を見ていたらスイッチが入ってしまった。稲妻が全身を走り、むくむくと巨大化する。あつという間に身長が天井すれすれになってしまった。

「ぐっふふふふふ」

ダークラビット誕生!

ダークラビットとは?

スーパーサイヤ人のようなものだ。うさぎがパワーアップするとダークラビットに変身するのだ。

「あわわわわわわ」

よしや君は恐怖のあまりションベンをちびつてる。

やまもっさん、クレ夫、ボビー、たけしも腰を抜かしている。

「ぐっふふふふふ。お前ら、今まで散々あたいをこけにしてきよつたな。まとめて食べてやる」

「助けてええ」

「おかーちゃん」

まず、ダークラビットは、やまもっさんの体をわしづかみにし、口の中へ入れ、ばりばりと食べた。

「うぎゃ。うぎゃ。むぎゃああああああ」

そして、ペッと元やまもっさんの骨を吐き出した。ゴミ箱にうまいこと入った。

クレ夫は携帯で電話した。

ぼるるるるるるる。

「あ。もしもし。大輔華子さん？大変なんだ」

「うふふふ。知ってるわよ。今見てたんだから。うふふふ」

「助けて！！！」

「ダメよ。自分で何とかなさい。あたしはただの読者なんだからぶち。

っーっーっー」

「くそ。ふざけたアマだ！」

クレ夫にもスイッチが入った。しゅわしゅわと縮んで行き、色も白黒になり、30センチくらいになった。

シーモンキー誕生！

クレ夫は怖くなると、小さくなって隙間から逃げよつとするのだ。すごいスピードで走ろうとした。

「逃がすか」

ダークラビットはシーモンキーを足で踏んづけた。

「うぎゃあああああああああ
即死である。」

「がっはっはははは。口ほどにもないやつめ。わっはははははははは
たけしとボビーは、わかったこれはきつと夢なんだと思った。いや、思うことにした。」

「イエーたけし」

「イエーボビー」

ハイタッチした。

「バカめ。なぜ現実を見ぬ」

怒ったダークラビットは、両手でたけしの両足を持ち、逆さまにした。

ばりばりばりばり。

「う、う、うぎゃあああああああ
股を裂いた。」

血が噴き出る。

ボビーはもうどうにもならぬ。次はオレの番か。

だって、もうオレしかおらんものな！
とその時である。

ずがああああああああああん。
ヘリコプターが部屋に突っ込んだ。

「ぐああああああ」

ダークラビットに体当たりし、そのまま直進。ダークラビットは壁に激突。失神した。

ヘリから降りたのはおこめだった。

「あわわわわ。どないしよう。殺してもうた」

ポビーは大喜び。

「アリガトウ！アリガトウ！」

「え。なんで??」

これ以上続きようがない気もするが、アクセスが40以上あったら、つづく！

（というより今アクセスが90あるので続けねばならぬ。というより、今まではちょっとエロかったのでアクセスが多かったがヒロインが死んでしまったので、どうしよう!!!）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1725j/>

小説株式会社(6)最後の一本が抜けたのでついにはげになっちゃったよバージ

2011年1月28日02時44分発行